

# 復刻 歴代風俗写真集



## 歴代風俗写真集と芸艸堂

このたび『歴代風俗写真集』が復刻される。原版は大正五年から十一年に芸艸堂から発行された十七巻である。近代京都の美術工芸界は、伝統に則りながらもデザインや技術の変革に取り組んでいた。その為、芸艸堂は社会で需要の高かった美術本を多く発行していた。出版業務の一環として、様々な美術研究団体の同人誌の発行にも関わっていた。風俗研究会の研究成果の発表の場である雑誌『風俗研究』はその一つである。加えて風俗研究会の編集による『歴代風俗写真集』や『江戸時代衣服文様集』、江馬務氏の著作『名妓吉野』・『灰屋紹益と吉野太夫』も芸艸堂が発行した。江馬氏の旺盛な研究活動のお役に立たたと自負している。

今から六年前、芸艸堂は版木蔵の床板を張り替えた。その際、蔵に残存していたコロタイプ印刷用のガラス版を処分する事となった。未整理で埃にまみれた重いガラス版達は、それを使って重版する事が無い以上処分するしかない。だが、日本の出版史上貴重な歴史資料である。興味を持つ研究機関が無いか探したものである。この事が人を介して日本写真保存センターの副会長松本徳彦氏に伝わった。日本写真保存センターは、文化庁の委託事業として貴重な記録を後世に伝えるための写真フィルム（写真原版）の収集・保存・アーカイブ化を行っている。ガラス版の調査に来た彼らは、これには未来の日本に残しておきたいものが撮影されている、と『歴代風俗写真集』のガラス版の引き取りを希望した。引き取られたガラス版は国立映画アーカイブ相模原分館のフィルム保管庫に収納され、ガラス版の図像はデータ化して日本写真保存センターHPの「写真原版データベース」に掲載された。ただ、それらは版木蔵に残っていた分のみに留まる。

この度の復刻本は十七巻全ての掲載図版及び解説・翻訳を再現している。始まりは昨秋の日外アソシエーツ株式会社取締役青木竜馬氏の来訪である。図書館でこの本を見つけ、是非復刻して研究者達に提供したいと熱く語られた。その熱意から復刻に協力した次第である。この本がこれからの日本や日本文化の研究に役立つ事を期待する。

山田博隆（芸艸堂 代表取締役社長）

## 百年を経た『歴代風俗写真集』復刻の意義

筆者はかつて、江馬務コレクションシヨングラス乾板（京都文化博物館管理）のデジタル化に少しく関与したことがある。ガラス乾板には、江馬が代表を務めた風俗研究会による扮装写真会の様子が克明に記録されていたと記憶している。そうした研究会の蓄積がもたらした成果の一つに、大正五年から十一年に刊行された江馬務編『歴代風俗写真集』全十七冊（芸艸堂）がある。歴史風俗考証のオーソリティーとして、学術的に重要な位置を占める本書であるが、本書を所蔵する図書館等の機関は存外に少なく、たやすく手に取り、パラパラと繰ることのできない本であった。

上述の状況は、発行部数に起因する可能性もあるが、本書の装幀にも原因を求められるかもしれない。本書はいわゆる古典籍ではないものの、袋綴じ、大和綴じの和装本である（第七巻は袋綴じではない）。本書の稀少性に配慮している側面は否めないが、和装という装幀も手伝って、書庫に収められているケースがほとんどである。所蔵機関によっては、貴重書として扱われている事例すら見受けられる。

今回、本書の復刻版が刊行される。それにより、本書が稀少性や扱いにくさから解き放たれることは言うまでもない。また、紙媒体による復刻と同時に、電子書籍化も行われる。本書の眼目は、歴史研究に基づいたりアルな扮装写真にあり、その図版の再利用という点に鑑みれば、本書の媒体としては、フットプリントや電子透かしも入らずに、十分な画質で図版を取り出せる電子媒体が最適であろう。初刊からすでに一〇〇年を経過しており、遅すぎた媒体変更かもしれない。しかし、今回の復刻は、本書の業績を再照射し、諸分野の研究に対して寄与するのももちろんのこと、アニメやマンガ、ゲームに代表される、現代のそして将来のクリエイティブ分野にも影響を与えていく契機になることは間違いないだろう。

金子 貴昭（京都先端科学大学 人文学部歴史文化学科 准教授）

## 解 説

『歴代風俗写真集』を解説するにあたり、本書にその名が散見される風俗研究会について、まずはふれておかなければならないだろう。

この研究会は、歴史画や風俗画を志向する少壮の画家たちが、時代風俗考証に係る指導者として風俗史研究者の江馬務（一八八四～一九七九）を擁立し、明治四四年（一九一）に京都で発足させたものである。当初の研究会は、江馬が講師を務めた京都市立絵画専門学校の在籍者等による私塾のような集まりであったが、次第に工芸家や実業家といった多彩な職種の人々が集うようになり、往時は六〇〇余名の会員を擁する社会に開かれた団体となった。当研究会は大正五年（一九一六）三月から機関誌『風俗研究』を発行しており、その姉妹篇として編まれたのが本書である。そのことは本書の序文で述べられている。

研究会活動の中でとりわけ画家から支持を得たのが扮装写真会（扮装実演会）である。これは江馬による時代風俗考証に基づいて、モデルが古代から現代に至る各時代の様々な立場の人物姿に扮装し、それを会員の画家が写生するというものであった。画家にとつては時代風俗考証の知識が得られるばかりでなく、写生技術の研鑽を積む絶好の機会となったようであり、参加者数は多い時で数百名にのぼった。この事業の初回は大正四年一月に建仁寺両足院で催され、江馬がモデルとなって公卿東帯姿に扮装したという。常連参加者の中には、上村松園（一八七五～一九四九）や伊藤小坡（一八七七～一九六八）といった京都画壇を担う顔ぶれのほか、有職故実の大家であった関保之助（一九六八～一九四五）等がいた。また、扮装の様子は専属カメラマンを務めた山本湖舟や中江山花によって撮影された。扮装に係るモデルの女性は祇園芸妓を起用することが多く、結髪や化粧等は京都古今美髪講習会なる専門家集団の協力を得ている。男性モデルは、猪飼嘯石（一八八一～一九三九）、伊藤鷺城（一八七三～一九四八）、伊吹蘚石、吉川観方（一八九四～一九七九）といった会員の画家等が務めたほか、本職の芸能者を招くこともあった。衣装については、小袖等の衣服を美術商の野村正治郎（一八七九～一九四三）、甲冑を日本画家の小村大雲（一八八三～一九三八）等から借用し、その他の装束や調度は江馬や観方等会員のコレクションを使用したり、研究会で製作した模造品を用いたりしている。

当初、衣装実演のモデルは一人だけであったが、やがて複数人を立てるようになり、時代衣装に見合った調度や背景を設けたり、大道具や大掛かりな舞台セットを組み立てたりするなど、空間の演出にも気を配るようになった。さらにはモデルの仕草や礼法にも注意を払うなど、よりリアルな時代風俗の再現を求めるようになった。後にはこれを大仕掛けにした風俗時代劇や実演イベント（大鎧着初式、模擬婚禮式、曲水の宴、鷹狩）も開催している。

本書に収録された写真は、大正五年から同一〇年（一九二一）にかけて実施された衣装写真生会の様子を撮影したものであり、おおよそ時系列で収録されている。つまり、本書は衣装写真生会の副産物であるともいえる。本書の製本は、美術書出版を手掛ける芸艸堂が担い、コロタイプ印刷の和装本として、大正五年から同一一年にかけて第一輯から第一七輯を発行している。第六輯以降は江馬の解説に加え、第三高等学校教授の瀧川規一による英語翻訳が付いており、国際的な展開を視野に入れていたことがうかがえる。第七輯は、研究会が大正七年（一九一八）に平安神宮で行った大鎧着初式の様子を全編にわたって収録している。甲冑を身にまとった会員等の雄姿は、確かな時代風俗考証に基づいているだけあり臨場感がある。本書は第一七輯をもって終刊となるが、跋文がないことからわかるように、それは予定された完結ではなかったようである。その事情については詳らかでないが、大正一三年（一九二四）には後継となる『歴世風俗映画集』を発行している。

江馬の時代風俗考証は、有職故実の知識に基づく正確さとビジュアルな点に特徴があり、それは本書を通じて初めて世に知られることになった。やがて江馬は時代劇映画の時代考証に係るブレイクとして重宝されたり、社寺における祭礼や年中行事の考案や指導を依頼されたりするようになり、その研究成果は広く社会に受容されてゆくことになった。こうした活動の礎となったのが先述した衣装写真生会であり、その成果と魅力を余すことなく収録しているのが本書なのである。それはまた、京都画壇に足跡を残す画家や近代日本画史に重要な位置を占める者たちの教養や制作活動にも影響を与えたことが考えられる。

本書は、日本の風俗史や美術史を識るうえで、欠くことのできない貴重な書物といえよう。

青江智洋（日本風俗史学会会員）

参考文献：青江智洋「江馬務の〈歴史の可視像化〉論—京都画壇と風俗研究会の萃点を論点として—」（『人文学報』第二二〇号、京都大学人文科学研究所、二〇二三年）

## 目次

歴代風俗写真真集と芸艸堂	山田博隆	……………	(3)
百年を経た『歴代風俗写真真集』 復刻の意義	金子貴昭	……………	(4)
解説	青江智洋	……………	(5)
歴代風俗写真真集 一	……………	……………	3
歴代風俗写真真集 序	風俗研究会同人	……………	5
幕末女官外出姿	江馬務	……………	7
武家大禮装	江馬務	……………	15
平安朝の山法師	江馬務	……………	21
歴代風俗写真真集 二	……………	……………	29
懸想文賣	江馬務	……………	31
鎌倉時代武士甲冑姿	江馬務	……………	35
徳川初期遊女姿	江馬務	……………	45
歴代風俗写真真集 三	……………	……………	53
山伏の風俗	江馬務	……………	55
江戸中期廊通いの風俗	江馬務	……………	63
歴代風俗写真真集 四	……………	……………	77
享保時代上流女装	江馬務	……………	69
歴代風俗写真真集 五	……………	……………	101
鎌倉時代下級武官の正装	江馬務	……………	79
江戸中期美人打砧の姿	江馬務	……………	87
南北朝時代武将小具足姿	江馬務	……………	95
歴代風俗写真真集 六	……………	……………	127
鎌倉時代大鎧の風俗	江馬務	……………	129
小松谷正林寺献燈會の風俗	瀧川規一（英訳）	……………	130
今宮やすらい祭の風俗	江馬務	……………	137
瀧川規一（英訳）	瀧川規一（英訳）	……………	138
江馬務	江馬務	……………	143
瀧川規一（英訳）	瀧川規一（英訳）	……………	144
歴代風俗写真真集 七	……………	……………	155

大鏡着初式序……………江馬務……………156  
大鏡着初式次第……………158

歴代風俗写真集 八……………179

平安末期公卿の衣冠の風俗……………江馬務……………181  
江馬務……………182  
瀧川規一(英訳)……………191  
江戸時代末婦人風俗……………瀧川規一(英訳)……………192

歴代風俗写真集 九……………203

平安朝武人略装……………江馬務……………205  
江馬務……………206  
瀧川規一(英訳)……………213  
徳川季世より明治初年に至る間  
京都に流行したる女子の鬘……………瀧川規一(英訳)……………215  
江馬務……………223  
鎌倉時代の童子の風……………瀧川規一(英訳)……………224

歴代風俗写真集 十……………229

鎌倉時代武士狩装束……………江馬務……………231  
江馬務……………232  
瀧川規一(英訳)……………233

虚無僧の風俗……………江馬務……………245  
瀧川規一(英訳)……………246  
白拍子の風俗(その一)……………江馬務……………253  
江馬務……………253  
瀧川規一(英訳)……………253

歴代風俗写真集 十一……………259

子ノ日の小松引の風俗……………江馬務……………261  
江馬務……………262  
瀧川規一(英訳)……………273  
白拍子の風俗(その二)……………江馬務……………274  
江馬務……………274  
瀧川規一(英訳)……………274

歴代風俗写真集 十二……………283

賀茂御蔭祭の舞人の姿……………江馬務……………285  
江馬務……………287  
瀧川規一(英訳)……………287  
江戸中期雨中の男子姿……………江馬務……………297  
江馬務……………298  
瀧川規一(英訳)……………298  
中世女子外出姿……………江馬務……………303  
江馬務……………304  
瀧川規一(英訳)……………304  
狂言「貰ひ婿」の風俗……………江馬務……………307  
江馬務……………308  
瀧川規一(英訳)……………308

歴代風俗写真集 十三……………313

上古の男子の風俗……………江馬務……………315  
江馬務……………316  
瀧川規一(英訳)……………323  
江戸時代中期遊女蜚狩の姿……………江馬務……………324  
江馬務……………333  
瀧川規一(英訳)……………334  
狂言「清水」の風俗……………江馬務……………339

歴代風俗写真集 十四……………339

一、江戸時代武家大禮装……………江馬務……………341  
江馬務……………342  
瀧川規一(英訳)……………347  
二、戦国時代戦士の風俗……………江馬務……………348  
江馬務……………357  
瀧川規一(英訳)……………358  
三、桃山時代の婦人風俗……………江馬務……………365

歴代風俗写真集 十五……………365

一、平安朝初期の風俗を有せる  
太秦神像……………江馬務……………367  
江馬務……………371  
瀧川規一(英訳)……………372  
二、天平時代婦人略装……………瀧川規一(英訳)……………372

三、鎌倉時代童子竹馬遊の風俗……………江馬務……………379  
江馬務……………380  
瀧川規一(英訳)……………385  
四、室町時代下僕の風俗……………江馬務……………386  
江馬務……………386  
瀧川規一(英訳)……………386

歴代風俗写真集 十六……………393

大覚寺藏後宇多法皇御輿……………江馬務……………395  
江馬務……………396  
瀧川規一(英訳)……………399  
鎌倉時代雑兵の風俗……………江馬務……………400  
江馬務……………407  
瀧川規一(英訳)……………408  
享保頃の花見美人の風俗……………江馬務……………413  
江馬務……………414  
瀧川規一(英訳)……………414

歴代風俗写真集 十七……………423

大覚寺藏光格天皇の御小直衣……………江馬務……………425  
江馬務……………426  
瀧川規一(英訳)……………429  
江戸時代前期の奴姿……………江馬務……………430  
江馬務……………430  
瀧川規一(英訳)……………430

江戸時代中期娘姿

狂言煎じ物賣の風俗

江馬務 ……

瀧川規一(英訳)

江馬務 ……

瀧川規一(英訳)

446 445 436 435

## 凡例

### 一 本書の内容

本書は『歴代風俗写真集』一〜十七(風俗研究会編、芸艸堂発行、大正五年〜十一年)の復刻版である。

### 二 構成

- (一) 全十七冊(和綴本)の底本をB5版一冊に改めた。
- (二) 七輯は横綴本のため、縮小し、写真の配置を一部変更した。
- (三) 復刻にあたり、解説文を元にしたキャプションを写真に付した。
- (四) 巻頭に「目次」を付し、解説文の掲載頁を示した。
- (五) 巻末に「写真一覧」を付し、キャプションと掲載頁を示した。

## 鎌倉時代武士甲冑姿

爰に撮影せるは大略鎌倉時代の武士の甲冑姿を表せるなり。頭にはもみ萎烏帽子を冠り、兜を戴く時は、その上に冠るなり。兜は鍬形うてる二方白の星兜にて三枚鍬を有す。鎧下には鎧直垂を着し、その上に胴丸の鎧を着す。左右杏葉二枚と八枚の草摺を有せり、籠手は鯨手甲を有し（親指なき手甲）、本邦唯一の古き籠手なる南都興福寺藏義經の籠手の模造に係り、脛當は大立舉（膝より上へ鐵板の上れるもの）にて亦古式を模倣せるものなれば注意すべし、太刀は絲卷太刀にて熊皮の尻鞘を箆め、脇指も坐像の寫真には義家公所持と傳へらるゝ海老鞘卷の模造を挿せる又見るべきものなり。その他重藤の弓、逆頬筋軍扇、頬貫（毛履）等一切備はりて、そゞろ當時の武人陣中にあるを想はしむ。

文學士 江馬務稿



第五図 鎌倉時代の甲冑姿 葵烏帽子 立ち姿 後



第四図 鎌倉時代の甲冑姿 葵烏帽子 立ち姿 正面



第七図 鎌倉時代の甲冑姿 兜 座り姿 正面



第六図 鎌倉時代の甲冑姿 葵烏帽子 横(右) 後(左)

# 江戸時代中期娘姿

解説 文學士 江馬務

翻譯 文學士 瀧川規一

以下挿入の九葉の寫眞は江戸時代中期(安永頃)の町娘の姿を風俗研究會にて扮装せしめ、撮影せしものにして、髪は小枝島田髷にて、前髪を稍立て、鬢をすしめ鬢、鬢を鶴鬢とし松葉の簪をさしたるも皆當時の流行を趁ひしなり。衣服は水色縮緬にしだり櫻、菖蒲、菊の文様に青海波を配したるもの、帯は勝色系錦八重櫻の文様にして、結方も當時の好たる水木結とせり。水木結は俳優水木辰之助の案出に係り當時も大に流行せしなり。

この衣服は風俗研究會名譽會員野村正治郎氏より借用し、髪は長谷川岩子氏が予等の指導を受け、鬢には特に鬢刺を入れて形をつくらひたり。二氏に對して厚意を謝す。



第五図 江戸時代中期の町娘 立ち姿

### Girl's Costume in the Middle of the Tokugawa Period (1603-1867 A.D.)

A girl of the merchant-class in the middle, that is, about the Anei-era (1772-1780), of the Tokugawa Period, is shown in the following nine plates. The model posed for the purpose of giving the members of our Society an opportunity to study the costume. Her hair is dressed in the style called "saeda-shimada," rather tight in front. The side-locks are called "suzume-bin" from their resemblance to sparrow wings. The back-lock is called "sekirei-tsuto," from its wag-tail shape. Special attention has been paid to fashioning this back-lock by using a pin. The ornamental pin she wears has two prongs. This style is strictly after the fashion of the time. Her garment is of a crape of light blue with a design of pendulous cherry-trees and irises and cypripediums, accompanied with a design of waves. The sash worn by her is made of brocade of deep indigo with a pattern of double-cherry-blossoms; the way in which it is tied is called the "mizuki" style, the favorite style of the people of time. The style was named after the inventor who was an actor, and then it was in great vogue.

We are greatly indebted to Mr. Nomura, Honorary Member of our Society, and Madame I. Hasegawa; the former has accommodated us with the use of the dress, and the latter has rendered valuable services, dressing the model's hair under our guidance.

T. EMA,

Tr. by K. TAKIGAWA.



第七図 江戸時代中期の町娘 シャガみ姿



第六図 江戸時代中期の町娘 立ち姿

# 写真一覽

〈一〉

イラスト	髪風(二竹のふし二つぶ鬘三下げ下四下げ上げ)	8
第一図	冬姿……………	9
第二図	着用法……………	10
第三図	夏姿殿上の場合……………	11
第四図	夏の外出姿……………	12
第五図	夏の外出姿……………	13
第六図	將軍より侍従以上の服立ち姿……………	16
第七図	將軍より侍従以上の服立ち姿横……………	17
第八図	將軍より侍従以上の服座り姿正面……………	18
第九図	將軍より侍従以上の服座り姿横……………	19
第十図	平安朝末の比叡山僧兵立ち姿……………	22
第十一図	平安朝末の比叡山僧兵立ち姿後……………	23
第十二図	平安朝末の比叡山僧兵長刀を持った姿……………	24
第十三図	平安朝末の比叡山僧兵長刀を持った姿正面……………	25
第十四図	平安朝末の比叡山僧兵長刀を構えた姿……………	26
第一図	懸想文売正面……………	32

〈二〉

第二図	懸想文売横……………	33
第三図	懸想文売後……………	34
第四図	鎌倉時代の甲冑姿葵烏帽子立ち姿正面……………	36
第五図	鎌倉時代の甲冑姿葵烏帽子立ち姿後……………	37
第六図	鎌倉時代の甲冑姿葵烏帽子横(右)後(左)……………	38
第七図	鎌倉時代の甲冑姿兜座り姿正面……………	39
第八図	鎌倉時代の甲冑姿葵烏帽子座り姿横……………	40
第九図	鎌倉時代の甲冑姿兜立ち姿横……………	41
第十図	鎌倉時代の甲冑姿兜座り姿横……………	42
第十一図	鎌倉時代の甲冑姿兜座り姿正面……………	43
第十二図	兵庫鬘の遊女座り姿正面……………	46
第十三図	兵庫鬘の遊女立ち姿……………	47
第十四図	兵庫鬘の遊女立ち姿横……………	48
第十五図	兵庫鬘の遊女座り姿……………	49
第十六図	兵庫鬘の遊女横……………	50
第一図	山伏立ち姿正面……………	56
第二図	山伏立ち姿横……………	57
第三図	山伏立ち姿正面ほら貝……………	58
第四図	山伏立ち姿正面錫杖……………	59

---

## 復刻 歴代風俗写真集

---

2023年6月25日 第1刷発行

---

発行者／山下浩  
編集・発行／日外アソシエーツ株式会社  
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス  
電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845  
URL <https://www.nichigai.co.jp/>

---

印刷・製本／株式会社平河工業社

---

不許複製・禁無断転載  
<落丁・乱丁本はお取り替えます>

ISBN978-4-8169-2972-4 Printed in Japan, 2023